HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	中央アジア関連研究文献リスト2021
Citation	日本中央アジア学会報, 18, 78-82
Issue Date	2022-07-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/91604
Type	other
File Information	JB18_019list.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

中央アジア関連研究文献リスト2021

本リストは、2021年（1月～12月）に刊行された、原則としてイスラーム化以降の中国新疆、旧ソ連領のムスリム地域、およびその周辺地域に関する学術文献（学術的映像作品を含む）をリストアップしたものである（理科系のものを除く）。原則的に、国内で刊行された、国内で活動する研究者による著作を中心とし、エッセイや辞典項目等は除外した。ただし、本学会会員の著作については、海外刊行のものも一部含まれる。なお、各文献の副題はコロンつなぎで統一した。

書籍

■AKIYAMA Tetsu, *The Qïrghïz Baatïr and the Russian Empire: A Portrait of a Local Intermediary in Russian Central Asia*, Leiden: Brill (€ 89.00)

■今村薫編著『遊牧と定住化』（中央アジア牧畜社会研究叢書2）名古屋学院大学現代社会学部今村研究室（非売品）

- 地田徹朗、タルガルバイ・コヌスバエフ、マルグラン・イクラソフ「小アラル海南岸でのラクダ飼養の特徴について：2020年2月、カザフスタン出張報告」
- 廣田千恵子「モンゴル国カザフ牧畜民の季節移動：バヤン・ウルギー県サグサイ郡を事例に」
- 塩谷哲史「トルクメンの遠征行」
- 今村薫、田村うらら「トルコのラクダ相撲：ラクダ利用と異種交配の視点から」

などを所収

■菊田悠編『ウズベキスタン手工芸史の再構築と「守るべき伝統」による地域開発の研究：成果中間報告書』アイワード社（非売品）

- 宗野ふもと「ウズベキスタンにおける手工芸生産の変遷：19世紀半ばから2010年代後半におけるシャフリサブズの事例から」
- 今堀恵美「ウズベキスタンのコロナ対策と観光業および工芸制作へのインパクト」

- 菊田悠「リシトン陶業に見るミルジヨエフ大統領の手工芸振興政策の方向性」
  を所収

■重田康博、太田和宏、福島浩治、藤田和子編著『日本の国際協力　アジア編：経済成長から「持続可能な社会」の実現へ』ミネルヴァ書房（3,800円＋税）

- 二瓶直樹「第Ⅴ部　中央アジア・コーカサス地域解説：ユーラシアの発展と安定のために」
- 二瓶直樹「22　対カザフスタン援助：中央アジアの資源大国」
- 齋藤竜太「23　対ウズベキスタン援助：開放へ向かう地域の要」
- 齋藤竜太「24　対キルギス援助：産業育成に苦慮する山岳国への支援」
- 二瓶直樹「25　対タジキスタン援助：国民生活の向上を目指して」
- 二瓶直樹「26　対トルクメニスタン援助：中央アジアの永世中立国」
- 立花優「27　対アゼルバイジャン援助：資源国での支援」
  などを所収

■シンジルト、地田徹朗編著『牧畜を人文学する』名古屋外国語大学出版会（2,000円＋税）

- 秋山徹「ユーラシア牧畜民がリーダーに求めたものとは？：血と力」
- 井上岳彦「ロシアの牧畜民はなぜ魚も好むのか？：定住化と生存戦略」
- 地田徹朗「ソ連はカザフに何をもたらしたのか？：遊牧民と近代化」
- 坂井弘紀「ユーラシア牧畜民の英雄叙事詩とは何か？：敵と味方」
  などを所収

■新免康編著『ユーラシアにおける移動・交流と社会・文化変容』（中央大学政策文化総合研究所研究叢書 30）中央大学出版部（3,700円＋税）

- 田中周「中国－中央アジア関係にみる安全保障－経済開発のネクサス：新疆の反テロ政策を事例として」
- ディリャーラ・ウスマノヴァ（濱本真実訳）「極東と新疆へのテュルク・タタール系移住者による1920～40年代の教科書出版：比較から浮かび上がる特徴」
- 河野敦史「新疆ホタンにおける清軍の到来と有力者の対応：ジャハーンギールの侵入事件（1826～1827年）におけるホタンのベクやアホンの動向を中心として」
- 新免康「中国新疆のイリ地域におけるウイグル族の「歴史歌謡」について」
  などを所収

■高尾賢一郎、後藤絵美、小柳敦史編『宗教と風紀：〈聖なる規範〉から読み解く現代』岩波書店（5,900円＋税）

- 帯谷知可「「よいスカーフ」と「悪いスカーフ」の攻防とその境界：現代ウズベキスタンのヴェール論争」
- 和崎聖日「旧ソ連・ウズベキスタンにおける『婚外の性』とイスラーム：男が語るモラル」

- 海野典子「経堂教育と新式教育：20世紀初頭の北京ムスリムの教育改革をめぐる議論と実践」

  などを所収

■地田徹朗、柳澤雅之編『ユーラシア国境域の自然環境と境域社会の生活戦略』（CIRAS Discussion Paper No. 103）京都大学東南アジア地域研究研究所（非売品）

- 地田徹朗「中央アジア・アラル海をめぐる境界の変容とスケールの政治」

  などを所収

■守川知子編『都市からひもとく西アジア：歴史･社会･文化』（アジア遊学 264）勉誠出版（2,800円＋税）

- 塩野﨑信也「スルタンとシャーの新たなギャンジャ」
- 杉山雅樹「ティムール朝期のヘラートにおける聖者たち」
- 木村暁「スンナ派学の牙城ブハラ」

  などを所収

■ ZIEME, Peter (ed.) *Catalogue of the Old Uyghur Manuscripts and Blockprints in the Serindia Collection of the Institute of Oriental Manuscripts, RAS*, vol. 1, compiled by Olga LUNDYSHEVA, Anna TURANSKAYA, and Hiroshi UMEMURA, Tokyo: Toyo Bunko, https://doi.org/10.24739/00007487 (not for sale)

論文

- ISAHAYA Yoichi, “From Alamut to Dadu: Jamāl al-Dīn’s Armillary Sphere on the Mongol Silk Roads,” *Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae* 74(1), pp. 65–78
- 宇山智彦「中央アジアの新型コロナ問題と国際関係：減速する世界？」川島真、池内恵編『新興国から見るアフターコロナの時代：米中対立の間に広がる世界』東京大学出版会，157–170頁
- 宇山智彦「クルグズスタン（キルギス）の波乱の30年：エリートの分裂による不安定な「民主主義」」『ユーラシア研究』64，32–34頁
- 宇山智彦「中央アジア「国際テロ」と「グレートゲーム」の虚実：アフガニスタン近隣諸国の多様な国益」『外交』69，44–49頁
- 宇山智彦「熊倉潤著『民族自決と民族団結：ソ連と中国の民族エリート』」（書評）『ロシア史研究』106，132–139頁
- 宇山智彦「ロシアと中国の地域主義から再考する勢力圏・影響圏：国力・関与・共感」日本国際フォーラム「ユーラシアダイナミズムと日本外交」分科会コメンタリー、https://www.jfir.or.jp/studygroup_article/5684/
- Уяма Томохико. Влияние перемен периода перестройки на становление политических

систем стран Центральной Азии: чувство угрозы и авторитаризм // Международная аналитика. Том 12, № 1. С. 55–73. https://doi.org/10.46272/2587-8476-2021-12-1-55-73

- UYAMA Tomohiko, “Understanding the Kazakh Autonomy of the Alash Orda Multifacetedly: Enlightenment, Post-Imperial Citizenship, and International Contexts,” in Диалог культур Востока и Запада через призму единства и многообразия в преемственности и модернизации общественного сознания: древний мир, средневековье, новое и новейшее время / отв. ред. В. Н. Вдовин. Алматы: Институт философии, политологии и религиоведения КН МОН РК. С. 167–173
- UYAMA Tomohiko, “Recommendations for Responding to the Current Situation in Afghanistan: From the Perspective of an Expert on Central Asia,” *GFJ Commentary* 104, http://www.gfj.jp/e/commentary/211201.html
- 帯谷知可「ロシア帝国からムスリム女性の解放を訴える：O. S. レベヂェヴァと A. アガエフのイスラーム的男女平等論」『史林』104（1）, 113–154頁
- 川本正知「書評と紹介　櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉編『元朝の歴史――モンゴル帝国期の東ユーラシア――』」『13、14世紀東アジア史料通信』26, 1–16頁
- KOMATSU Hisao, “Toy ve İslâm: Geçmiş ve Bugün,” A. Merthan Dündar ed., *Prof Dr. Pulat Otkan Anısına Sinoloji, Japonoloji ve Koreanoloji Makaleleri*, Ankara, s. 9–20
- KOMATSU Hisao, “Zengi Ata’dan Orta Asya Tarihine Bir Bakış,” Güljanat K. Ercilasun ve Muhammed B. Çelik ed., *Üç Kıta – Bir Tarihçi: Prof. Dr. İlhan Şahin Armağanı*, Bursa, s. 277–295
- 坂井弘紀「水辺の異形」『和光大学表現学部紀要』21, 35–54頁
- 塩野﨑信也「離婚裁判の上訴とエリザヴェートポリ県メジュリスの不適切な事務処理」『龍谷史壇』151–152, 29–49頁
- 塩野﨑信也「ロシア帝政期南東コーカサスの離婚裁判：2度結婚した後に2度離婚した未婚女性の事例」『東洋史研究』80（3）, 548–513頁
- 塩谷哲史「ヒヴァ・ハン国史研究とフィールドでの史料調査」『筑波大学地域研究』42, 45–54頁
- 塩谷哲史「19世紀中葉のヒヴァ＝ロシア関係再考：シュクルッラー・アガのロシア、オスマン両帝国への派遣について」『西南アジア研究』92, 29–47頁
- SHIOYA Akifumi, “The Association between the Descendants of Sufi Saint Sayyid Ata and the Khans of Khiva at the Beginning of the 19th Century,” *Central Asiatic Journal* 64(1-2), pp. 183–195
- 新免康「19～20世紀の南新疆に関わるウイグル族の歴史歌謡について」『中央大学政策文化総合研究所年報』24, 145–167頁
- NODA Jin, “The Kazakhs, 16th–19th Centuries,” *Oxford Research Encyclopedia of Asian History*, Oxford University Press, https://doi.org/10.1093/acrefore/9780190277727.013.317

- 福田浩子「中央アジアの刺繍布スザニについて(1)：スザニに関する研究の中間報告および刺繍ワークショップ」『広島県立美術館研究紀要』24, 23–30頁 + カラー頁
- 藤本透子「聖者になる過程：カザフスタンにおける近代化の経験とイスラーム」長谷千代子、別所裕介、川口幸大、藤本透子編『宗教性の人類学：近代の果てに、人は何を願うのか』法蔵館, 174–202頁
- 宮崎千穂「井上靖の中央アジアへの旅(1965)とソ連のインバウンド観光：日本人知識人の“西域”への憧憬と社会主義プロパガンダとの間で」『日本国際観光学会論文集』28, 121–132頁
- 宮崎千穂「〈マラズ〉からロシア帝国の〈梅毒〉へ：19世紀後半の中央アジアの風土性梅毒への医療実践と統計学・地誌学・民族誌学」『ロシア史研究』106, 104–131頁
- 和崎聖日「揺れ動くジェンダー規範：旧ソ連中央アジアにおける世俗主義とイスラーム化」田中雅一、嶺崎寛子編『ジェンダー暴力の文化人類学』昭和堂, 179–197頁
- 和崎聖日、アドハム・アシーロフ「旧ソ連・ウズベキスタン南部のスーフィズムと民族間の共生：ジャフル儀礼への注目から」東長靖、イディリス・ダニシマズ、藤井千晶編『イスラームの多文化共生の知恵：周縁イスラーム世界のスーフィズムに着目して』京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属ケナン・リファーイー・スーフィズム研究センター, 77–105頁